

佐久地域 (小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町)

佐久地域の特性

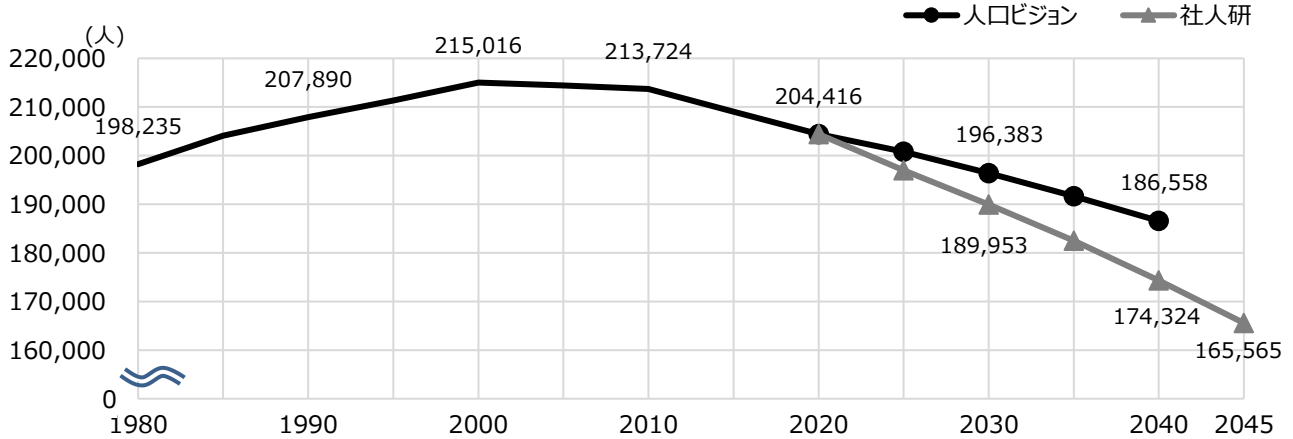
- ・晴天率が高く、熱帯夜がない冷涼な気候の高原地域であり、国内有数の活火山である浅間山が存在します。
- ・佐久地域北部は、新幹線・高速道路が整備され首都圏から良好なアクセス環境です。さらに、中部横断自動車道が山梨県に向けて南佐久郡内まで延伸しています。
- ・戦後まもなく始まった農村医療活動等の伝統が根付き、医療関係者や市町村等による保健活動が活発です。また、地域の医療体制が充実しています。
- ・冷涼な気候を活かした県内屈指の高原野菜の産地であり、伐採期を迎えた優良なカラマツが豊富に存在します。また、利便性の高い物流網を活かした多様な企業が立地しています。
- ・軽井沢、立科等の観光地に加え、日本三選星名所*に選ばれた野辺山等、各地で星空を楽しむことができます。
- ・近年、特徴的な教育を行う教育機関が各地で設立されており、教育を目的に移住される方が増えています。

【管内の概況】



【人口】

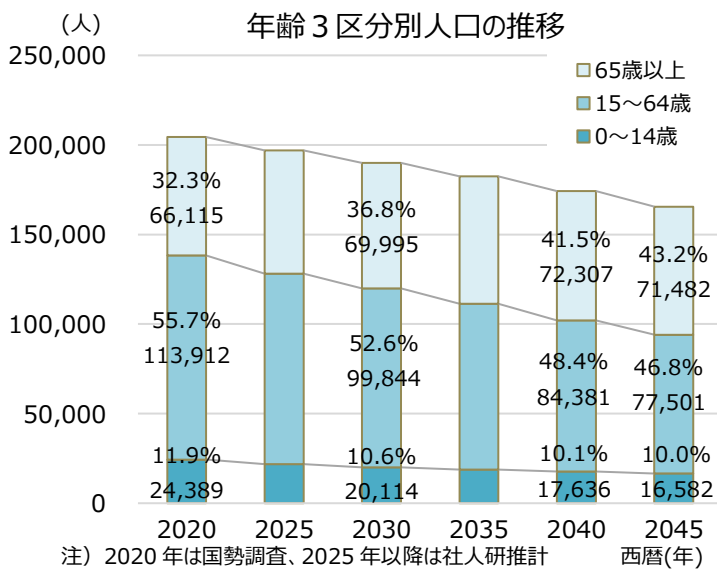
人口の推移



注) 2020 年までは国勢調査、2025 年以降は社人研推計及び市町村人口ビジョン (地方創生総合戦略)

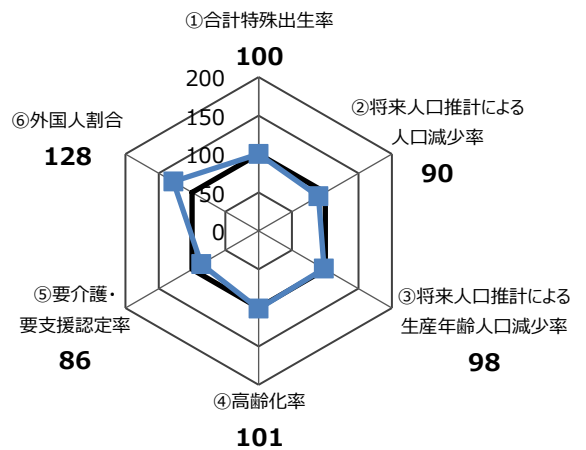
注) 人口ビジョンは 2045 年まで推計していない市町村があるため 2040 年まで記載

年齢 3 区分別人口の推移



注) 2020 年は国勢調査、2025 年以降は社人研推計

【地域の特徴 (人口)】



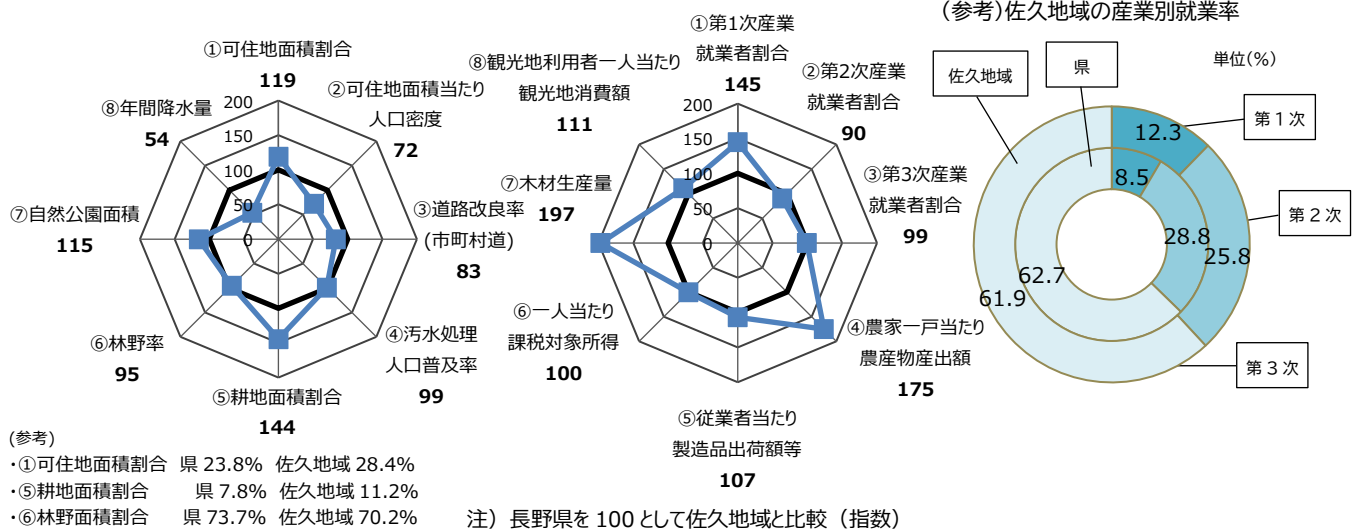
(参考)

・②将来人口推計による人口減少率 県△21.2% 佐久地域△19.0%

・③将来人口推計による生産年齢人口減少率 県△32.6% 佐久地域△32.0%

【地域の特徴 (地勢)】

【地域の特徴 (産業)】



(参考)

・①可住地面積割合 県 23.8% 佐久地域 28.4%

・⑤耕地面積割合 県 7.8% 佐久地域 11.2%

・⑥林野面積割合 県 73.7% 佐久地域 70.2%

注) 長野県を 100 として佐久地域と比較 (指数)

- ・2020 年の人口は、前回の地域計画策定時(2018 年)における社人研推計値を 1,366 人上回る 204,416 人でしたが、目標値 205,215 人(市町村人口ビジョン推計値)は達成できませんでした。
- ・産業面では、第 1 次産業従事者割合や農産物産出額が高く、農林業が盛んな地域性を示しています。

「高原野菜・カラマツが輝く豊かな農山村」と「教育・医療が充実した活力ある街」が織りなす「住んでよし・訪れてよし」の佐久地域

- ・災害に強いまちづくりが進むとともに、充実した保健・医療体制と最適な公共交通サービスにより暮らしが支えられ、誰もが生き生きと、日々学びながら、心地良い毎日を送っています。
- ・農林業、製造業、観光業いずれも強く、デジタル化や脱炭素化、循環経済*に対応した産業群が地域の強みとして更に発展し、地域経済に活力を与えています。
- ・首都圏からの利便性の良さに加え、中部圏へのアクセスが飛躍的に向上し、海外・県内外との交流が拡大しています。さらに、移住者や二地域居住者*が地域に溶け込み、住民と共に魅力ある地域づくりがいたるところで行われています。



地域重点政策

1 「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり

活発な保健活動、充実した医療体制と福祉の連携により健康長寿を推進するとともに、地域の特性を更に活かし、将来を担う人材や地域住民の学びの機会の充実、防災対策、地域公共交通など社会基盤の強化により、暮らしやすく住み続けたいと思える地域を目指します。

【現状と課題】

- ・農村医療の伝統が受け継がれ、健康づくり活動が活発で、管内に 13 病院が存在するなど医療体制が充実しています。高齢者数の増加等を見据え、医療・介護・生活支援の更なる充実が必要です。
- ・工業系・IT系の学校が他地域に比べ少なく、高校生は上田地域、山梨県、群馬県に流出しています。私立校による特徴的な教育が注目される中、公立校も地域力を活かした個性的で子どもから選ばれる教育環境を整備していく必要があります。
- ・佐久市～上田市間のバス路線が廃止されるなど、公共交通を民間事業者の独立採算により維持することは困難な局面を迎えています。持続可能な公共交通システムの構築に向けた検討が必要です。
- ・JR小海線やしなの鉄道の利用者数はコロナ禍の影響を受け、大幅に減少しています。沿線住民と観光客の移動手段を守るため、関係者が一体となって鉄道の利用促進に取り組むことが必要です。
- ・国内有数の活火山である浅間山の防災対策、中部横断自動車道の整備促進や近年の激甚化・頻発化する自然災害から暮らしを守る基幹インフラの整備が必要です。
- ・豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素に向けた取組が求められています。

【取組内容】

- 医療・介護・生活支援の更なる充実と教育の強化
 - ・高齢者が健康的に長生きするため、シニア世代の活躍の場の創出と地域包括ケアの充実
 - ・社会環境の変化に対応し、地域の充実した医療体制・機能を維持・向上
 - ・保健、医療、福祉人材を輩出する佐久大学と連携し、若い世代の意見を踏まえた施策を推進
 - ・創造的な教育を実現する新しい学校の増加が、地域の活力創出につながる取組を一層促進。さらに県立高校再編（小諸新校・佐久新校）に併せ、地域と学校の連携体制を構築

●広域的な公共交通施策の推進と暮らしを守るインフラの整備

- ・地域内で取組が進むMa a S*やデマンドバス*の実証を深め、官民連携により広域的な公共交通施策を推進
- ・小海線沿線地域活性化協議会やしなの鉄道活性化協議会と連携してJR小海線・しなの鉄道の利用を促進し、沿線地域の活性化を推進
- ・安心して快適な暮らしに必要な買い物サービス等の生活基盤を堅持し、住民主体の地域づくりを支援
- ・浅間山周辺地域の火山防災を強化するため、浅間山の大規模噴火を想定した広域避難計画を策定するとともに、住民や観光客等の防災意識の向上を促進
- ・自然災害から暮らしを守るため、治山、治水、砂防、道路、農業水利施設などの基幹インフラ機能を維持・向上
- ・「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」の着実な推進



JR小海線「HIGH RAIL 1375」(上)
しなの鉄道「晴星」(下)

●豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素

- ・4つの国立公園・国定公園を中心とする豊かな自然環境の保全と適切な利用のための整備を推進
- ・ニホンジカ等の食害による森林生態系破壊や山地荒廃を防止する取組を市町村・NPO等と連携して実施
- ・冬季の寒冷な気候に適した高断熱住宅(ZEH*・パッシブハウス*等)の普及、公共交通の利用拡大や豊かな農畜産物の地消地産*など脱炭素社会に向けた生活スタイルの転換を促進
- ・再生可能エネルギーの普及拡大や森林の持続可能な整備等による地域循環共生圏*の創出を推進
- ・環境関連産業等と連携した森林環境教育*を推進



白駒の池(小海町・佐久穂町)

●地域に息付く文化の承継

- ・地域の地勢を形作った火山の歴史や石器時代・縄文時代の遺跡、神社・仏閣・農業用水路等の中近世の生活・習慣等、地域の素晴らしさを再発見する学びの機会を拡大
- ・世代間の交流と学びを推進し、集落等に脈々と息付く伝統食や祭りなどの無形文化財を未来に承継



佐久鯉

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
人口総数 毎月人口異動調査(企画振興部)	202,731人 (2022年)	197,990人 (2028年)	佐久管内の市町村における人口総数 (4月1日現在) [市町村人口ビジョンの人口推計を基に 目標を設定]
生きがいを持って生活している 元気高齢者の割合 元気高齢者等実態調査(健康福祉部)	61.6% (2019年度)	現状以上 (2025年度)	元気高齢者(65歳以上の高齢者のうち、 要介護・要支援認定を受けていない人)の うち「生きがい」を感じている人の割合 [県全体の目標を基に設定]
特定健診受診率 (健康福祉部調)	50.3% (2019年度)	60.0% (2025年度)	協会けんぽ・市町村国保の特定健診受診率 [厚生労働省・第3期特定健康診査等実施 計画期間中の協会けんぽ・市町村国保に おける目標を基に設定]



2 「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり

持続可能な農林業を目指し、環境負荷の低減やスマート農林業など新しい取組を進めるとともに、農畜産物の地域内流通の拡大やカラマツ材の更なる利用促進を図ります。成長産業の創出や循環経済*への転換を図るとともに、美しい星空や豊かな自然環境を活かし、観光客の新たな価値観や行動を捉えた観光地域づくりを行います。

【現状と課題】

- ・高原野菜をはじめ米・畜産など県内屈指の農畜産物の産地であり、伐採期を迎えたカラマツ資源が豊富です。将来にわたって持続可能な農林業となるよう、今後を見据えた施策が必要です。
- ・電子部品等を中心とする製造業は、デジタル化、脱炭素化、循環経済*への対応を強化するとともに、ITやデザインといった新たな成長産業の創出・振興が必要です。
- ・軽井沢町など一部地域に観光客が集中しています。自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティの充実や豊かな農畜産物を活かした食事や地元産の日本酒・ワイン・ビール・ウイスキー等の魅力を発信し、ブランド力の向上が必要です。
- ・首都圏からの利便性の良さを活かし、新幹線や高速バス、自家用車により多くの観光客が訪問します。環境負荷の小さい二次交通*の整備と、電気自動車（EV）及び燃料電池自動車（FCV）に対応した観光地域づくりが必要です。

【取組内容】

- 農林水産業、商工業の振興
 - ・全国屈指の葉野菜類産地として持続的な発展を図るため、環境負荷軽減の取組を実施。また、農畜産物の地消地産*や地域内循環を推進するため、関係機関と連携した地域内流通体制を確立
 - ・日本酒蔵 13 蔵や複数のワイナリーやブルワリー等が立地する地域性等を活かし、地域食材や特産品の消費拡大を促進
 - ・森林機能のゾーニング*や主伐・再造林*による資源の循環利用によりカラマツ林業の推進と二酸化炭素吸収の増進を図るとともに、建築用材としてカラマツ材の普及と販売を促進
 - ・デジタル関係企業の支援や、DX*による生産性向上の取組を実施
 - ・佐久地域の特色である医療・健康関連産業への地元企業の挑戦支援と、県内外企業の誘致促進
- 新たな価値観・行動を捉えた広域観光の推進
 - ・アフターコロナを見据え、インバウンド*需要の取り込みや観光客の新たな価値観・行動を捉えた観光地域づくりを推進
 - ・眺望の良さや自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティの充実を発信し、ブランド力を向上
 - ・諏訪地域や山梨県と連携し、中部横断自動車道の全線開通を見据えた広域周遊観光や公共交通を活用した誘客の強化



カラマツ林の主伐・再造林



サイクルツーリズム



美しい星空(南牧村)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
農産物産出額 「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額（推計）」を基に推計（農政部調）	684 億円 (2020 年)	696 億円 (2026 年)	農産物の産出額 [長野県食と農業農村振興計画における県全体の努力目標を基に設定]
製造業の従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査（経済産業省）、経済センサス-活動調査（総務省・経済産業省）	868 万円 (2019 年)	2019 年比 +10.2% (2025 年)	製造業の付加価値額を従業者数で除した数値 [県全体の目標を参考として設定]
観光地消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	396 億円 (2021 年)	593 億円 (2027 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [コロナ前水準（2019 年）及び県全体の目標を基に設定]
素材（木材）生産量 木材流通調査（林務部）	102.3 千㎡ (2020 年)	154 千㎡ (2026 年)	建築・チップ等に使用される木材（丸太等）の生産量 [現状の約 1.5 倍を目標に設定]



3 「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり

管内で芽生える特徴的な教育を活かして移住者を更に増加させるとともに、移住者同士・移住者と住民が交流する機会の提供や、テレワーク・ワーケーション*をはじめとするつながり人口*の増加に向けた取組を実施します。

【現状と課題】

- ・地域内に魅力ある小、中学校や幼稚園等が多く、県内外から人々を引き付けています。このような地域性を活かし、子育て世代の移住者の更なる取り込みと、教育期間終了後も引き続き定住し続けてもらえる環境づくりが必要です。
- ・コロナ禍を契機として地方回帰の機運が高まる中、首都圏からの利便性の良さを最大限に活かし、つながり人口*を増加させる取組が必要です。

【取組内容】

- 移住・定住、つながり人口*の増加に向けた取組の推進
 - ・「教育移住」が多い地域特性を踏まえ、教育内容の紹介や新しい学校づくりの動き、移住後のライフスタイルや子育て・出産支援策等の情報発信を強化し、移住・定住を推進。さらに、住環境を提供しやすい仕組みづくりを促進
 - ・「農ある暮らし*」による農業移住や「おためしナガノ*」によるIT・デザイン系人材移住など、仕事のしやすさの魅力発信を強化し、移住・交流の裾野を拡大
 - ・地域で活躍している移住者に交流の場を提供し、新たなつながりや仕事の創出を支援
 - ・首都圏からの利便性の良さを活かして、テレワーク・ワーケーション*を推進する団体等と連携し、新たな事業の開拓や新規開業を支援するとともに、二地域居住*等の移住者ニーズを把握し、上田地域と連携した東信地域全体での取組を検討



ワーケーション(立科町)

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
県外移動転入計 毎月人口異動調査（企画振興部）	6,324 人 (2018~2022 年平均)	7,000 人 (2027 年)	県外から佐久地域への転入者数 [直近5年間の平均値から約 10%増加を目標に設定]



1 浅間山の防災体制の強化

浅間山周辺地域の火山防災を強化するため、浅間山において想定される火山現象の状況に応じた警戒避難体制の整備を行います。

【現状と課題】

- ・国内有数の活火山である浅間山について、防災体制の強化が必要です。

【取組内容】

- 広域避難計画の策定
 - ・群馬県及び関連自治体と連携し、大規模噴火を想定した浅間山広域避難計画を策定
 - ・浅間山広域避難計画に基づき、各市町村の具体的な避難計画作成を支援



初冬の浅間山



2 中部横断自動車道の整備促進

中部横断自動車道の全線開通に向け関係機関と連携して取り組むとともに、全線開通による県内外との交流拡大の効果を最大限に活かすため、周辺道路網の調査・整備を進めます。

【現状と課題】

- ・中部横断自動車道は、長坂JCT（仮称）から八千穂高原ICまで未整備区間です。物流や医療等の面における時間短縮のほか、観光・農業振興、防災対策のため、早期の全線開通が必要です。

【取組内容】

- 早期の全線開通に向けた連携強化
 - ・山梨県等との連携を強化し、未整備区間である長坂JCT（仮称）から八千穂高原ICまでの建設促進のため、国への要望活動を推進
 - ・全線開通を見据えた、物流・貿易・企業誘致・観光などの分野での利用促進
- 周辺道路網の調査及び整備
 - ・中部横断自動車道の効果を最大限活かすため、道路網の調査及び整備



八千穂高原IC

佐久地域の市町村

小諸市	<ul style="list-style-type: none"> ・雄大な浅間山麓と千曲川を挟んだ御牧ヶ原台地からなる高原の城下町。 ・島崎藤村や桜・紅葉で有名な懐古園など文化の香り高いまち。ブロッコリーの栽培も盛んで日本ワインの銘醸地。
佐久市	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で海から一番遠い地点が存在し、自然環境に恵まれた高原都市。 ・高速交通網の結節点としての優位性、災害に強いまちへの転換といった地域の特徴を活かした企業誘致を推進する。
小海町	<ul style="list-style-type: none"> ・南佐久地域のほぼ中央に位置し、駅舎に併設の病院がある全国に例を見ない町。 ・町の資源を活かし、都市圏企業に向けた「リ・デザインセラピー」を提供し、20社以上の企業と協定を締結している。
佐久穂町	<ul style="list-style-type: none"> ・ハケ岳山系と秩父山系の豊かな森と水、苔むした原生林や白樺林が美しい高原の町。 ・恵まれた環境を活かした農林水産業が盛んで、水稻、花き、果樹、高原野菜、酪農、養魚、カラマツなどの産地。
川上村	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の8割を占める森林地域と千曲川源流を有する、自然豊かな村。 ・いち早く近代農業へ脱皮して、生産量日本一となった、日本有数のレタス産地。
南牧村	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県の東端に位置し、標高1,000~1,500mの高低差がある村。 ・冷涼な気候を利用した高原野菜の生産や酪農が盛んで、美しい星空や豊かな自然を活かした観光振興に取り組む。
南相木村	<ul style="list-style-type: none"> ・南佐久の東南端、群馬県境に位置し、東西に細長い地形の村。 ・松茸やそばなどの生産物を活かした特産品の開発に取り組む。
北相木村	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の9割が山林に囲まれ、大小6つの滝を有する自然豊かな村。 ・自然の中での体験や集団生活を通して、豊かな人間性を育む山村留学に取り組む。
軽井沢町	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県の東端及び群馬県境に位置し、浅間山の南東斜面地点に広がる高原の町。 ・官民連携による滞在型観光を推進し、別荘住民と周遊型観光客との調和を考慮した観光振興を図る。
御代田町	<ul style="list-style-type: none"> ・雄大な浅間山の南麓に広がる自然豊かな高原の町。 ・農業における高原野菜の産地として、経営規模拡大、多品目野菜の推進、連作障害回避などによって振興を図る。
立科町	<ul style="list-style-type: none"> ・東は佐久、北は東御、西は上田・長和、南は茅野それぞれに隣接した、南北に長い町。 ・通年型リゾート地として更なる発展と、地の利・環境の良さを活かして産業の振興を図る。



佐久総合病院佐久医療センター



ハケ岳山麓に広がるレタス畑



山村留学(南相木村・北相木村)